

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 元 年 6 月 1 日

事業所名 宜野湾市児童発達支援事業所「愛育園」

		チェック項目		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○	保育室とは別に、言語指導、発達相談等部屋を設けている	言語指導の部屋が狭いと思われる
	2	職員の配置数は適切である	○	利用人数に対して職員は多めに配置している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○	安全面に気をつけて角にクッションシールを貼ったり、段差がないようにしている	トイレに反面ドアがないので水遊びになってしまうことがある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○	季節に合わせて壁面を変えている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○	行事を終えると反省会をし、改善に努めている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	×		実施後、検討していきたい
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	×		これから行う予定
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	×		これから行う予定
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○	向上できそうな研修は参加を促している	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	相談事業所とアセスメントを行い、支援計画を作成している	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		地域支援は行っているが、具体的な地域支援項目を設けていないので今後も設けていきたい
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	季節に合った活動、歌等毎月変えている	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○	集団活動とグループ活動、個別指導を行っている	

	チェック項目		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	グループ指導の場合は特に役割分担を行う	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	気づいた点は共有するよう努めている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	個別記録を取り共有	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	相談支援事業所と定期的にモニタリングを行い、発達・支援の確認をしている	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	今年度からはグループ担当とサビ管で参加していく	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	気になることがある時は特に連携をとるようにしている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象になる児がない
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象になる児がない
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	保育記録、サポートブック等での情報共有を行っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	エイブル利用 引継ぎを行っている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	親子通園連絡協議会で研修や講演会等を通して学びの場を作っている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	×		昨年は実施できなかったもので、今年度は行いたい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	2カ月に1回の連絡協議へ参加している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	いつもお互いに確認・共有をしている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	×	良い情報があったら知らせるようにしている	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	分かりやすく確認しながら行っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	相談支援事業所の計画と専門士の助言をもとに子どもの発達の視点をおいて行っている	

	チェック項目		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	保育士や専門士から助言や支援を行うようにしている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	母の会(月2回)、パパ会、勉強会、情報交換会、交流会を行っている	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	なるべく迅速に対応するようにしている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月園だよりを発行し、必要に応じて文面を掲示している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○	注意して保管している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	分かりやすい説明をする配慮をしようと思っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	福祉まつりに参加。ボランティアを募っている	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		対応マニュアル作成	感染等の周知は掲示しているが防犯の訓練はまだしていないので今後実施予定
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	火災避難訓練を年2回実施	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	児童票提出記入時に保護者確認を行っている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	親子通園なので与える時にも確認をしている	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	×	職員間で話し合い共有している	今後、作成予定
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	講演会等に参加	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	×		身体拘束に該当する子はほとんどいない

この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。